

追手門学院大学
上方文化笑学センター年報
第5号



2024年度

追手門学院大学 上方文化笑学センター

目 次

インタビュー

西上雅章特別顧問に聞く	聞き手：広瀬 依子	1
-------------------	-----------	---

寄稿

就活と笑顔	大谷 邦郎	5
-------------	-------	---

活動報告

こころネット KANSAI × DIVE プロデュース公演『あなたのとなりに』	横田 修	7
---	------	---

2024 年度上方文化笑学センター活動記録		11
-----------------------------	--	----

2024 年度上方文化笑学センター所員および研究員一覧		13
-----------------------------------	--	----

追手門学院大学上方文化笑学センター規程		15
---------------------------	--	----

インタビュー

上方文化笑学センター・西上雅章特別顧問に聞く

聞き手：上方文化笑学センター長・文学部 広瀬 依子

上方文化笑学センターは、客員として多くの方々に協力をあおいでいる。

本学 OB で通天閣観光（株）西上雅章会長は本学客員教授であり、センター設立当初から特別顧問としてさまざまな支援をいただいている。西上特別顧問の考える大阪とは、笑いとはどのようなものか。見解をインタビューした。

大学での思い出

追手門学院大学に入学したのは1970（昭和45）年です。学生運動真っ盛りで、東大では安田講堂が封鎖されたり入試が中止になったりした時代です。そのようなニュースがよく流れるものですから、当時受験生だった私の進路について、父親が心配しましてね。調べた結果、追手門学院大学を勧められて、入学することができました。

まだ安威キャンパスしかなく、学部も私の在籍する経済学部と心理学部だけでしたから、学生数もそれほど多くなかったですね。

振り返ってみて、追手門学院大学に入って本当によかったと思います。学業はもちろんですが、特に、課外活動のゴルフ部で得たものは大きかったですね。学内の坂を走る練習や、午前7時から始まる朝練は大変でしたが、先輩、同級生、後輩に恵まれた楽しい日々でした。同級生たちとは今でも親しく交流しており、年に何度かは皆で会います。家族ぐるみで旅行にも出かけるんですよ。本当にいい大学に入りました。

大阪のシンボル・通天閣

新世界というエリアの中に通天閣があるわけですが、この新世界と通天閣は運命共同体だと思います。誕生は1912（明治45）年、生みの親は、大阪商工会議所第七代の会頭・土居通夫さんです。一般庶民が外国に行けない時代に、外国を感じてもらおうということで、世界各国の建物を模して造られました。道路区画も北はパリ、ミナミはアメリカ・ニューヨークを真似ています。だから新世界というわけです。

ただ街は変化、進化していくものです。もともと新世界は三大演芸・映画の街だったんです。東京の浅草、神戸の新開地、そして大阪の新世界です。それがパチンコの街になり、串かつの街になり、今は射的や弓道のお店が増えましたね。僕が子どもの頃は映画が盛んでしたので、洋画・邦画の映画館もたくさんありました。今、通天閣で似顔絵を描いてくれる人がいるのですが、もともと映画の看板を描いていた人なんですよ。

僕の生まれは新世界。ですから、通天閣に見守られて育ったようなものです。東京では江戸っ子と言いますが、僕は新世界っ子。通天閣の東側には天王寺公園と動物園があり、西側に通学していた小学校がありました。そして北側には自宅があり、南側に両親が経営する飲食店がありました。通天閣を中心としたエリアの中で過ごしてきたわけで

す。小学校の友人は新世界で商売をしている家の子も多かったですし、今も残っている人が結構いるんですよ。

ただ、僕自身はまさか通天閣に携わり、後に社長・会長になるとは思ってもいませんでした。通天閣には紆余曲折がありましてね。1970年代には累積赤字が6000万円ほどという厳しい状態でした。通天閣は建っているけれど財務内容を見ると倒れている、と言われていたぐらいです。その頃はオイルショックや光化学スモッグ等があり、地域環境も悪かったので、通天閣になかなか人が集まらなかったんです。

そこでうちの父親や街の方々が再建に乗り出して、赤字を解消していきました。大阪の文化人である作家の石浜恒夫先生や藤本義一先生、落語家の六代目笑福亭松鶴師匠など、いろいろな方が応援してくださいます、経営が徐々に戻っていきました。

たまたま父親が経営に携わることになったわけですが、その時に父が僕に、いずれ通天閣に関わるのだから早く仕事を覚えた方がいい、と言いましてね。僕は飲食業に従事していましたが、通天閣に入社させてもらったんです。1974年でした。

2003年には社長に就任しました。その時、いちばん初めに考えたのは、高さでは勝てないということです。東京にはスカイツリーがあるし、われわれの近くにはあべのハルカスがある。日本一高いタワーは無理だけれども、日本一おもしろいタワーにしよう。そう考えていろいろな仕掛けをしていったんです。おかげさまでそれが当たりました。金色の展望台や通天閣ロボットを作ったり、いろいろ工夫してきました。最近では、タワースライダーとダイブ&ウォークという、新しいアトラクションが人気をいただいています。客層が変わりました。若い人にかなり来ていただいています。特に土曜・日曜は30分待ちぐらいがザラですね。

このような展開は、工事に携わっていただいている竹中工務店さんからの提案もあります。やはり大阪に本社を置く会社とあって、楽しくおもしろいアイデアをたくさんいただくんです。今の通天閣の社長も若いので、このような提案があるけれどもどうですか、と話を持ってきてくれる。そこで面白いからやろう、となるわけです。

伝統とはリノベーションの積み重ねだと思うんです。古いことは大事ですが、それを守るだけでは結果的には朽ちていく。芸術も芸能も、一般的な文化も同じです。新しい改革が必要だと思います。そういう意味では通天閣が変化していくのは大事なこと。伝統があるから改革もできる。本質は守っていかないといけないけれど、進化は必要です。

笑いとお笑い

いま、上方文化笑学センターの特別顧問をお引き受けしていますが、きっかけは以前学長だった坂井東洋男先生からのご依頼です。初めは客員教授にお誘いいただき、その後、笑学センター（当時・笑学研究所）の特別顧問もお受けしたという流れです。僕は大阪で生まれ育っていますから、笑いにはもともと興味はありました。笑うことは健康にいいし、ストレス解消にもなります。

「笑学基礎」という授業も何度か担当させていただき、通天閣を中心としたお話をいたしました。難しかったのは、学生さんとのジェネレーションギャップをどう埋めるかですね。自分が知っていることでも、学生さんにはわからない。『哀愁』というアメリカ映画をヒントに、劇作家の菊田一夫が『君の名は』というラジオドラマを書いたんですよ、と言っても、なかなか通じないですからね。お笑いの芸能人の話をしても、夢路いとし・喜味こいしさん、桂文枝さん、六代目笑福亭松鶴さんの話をしてもわからない。お互いにわかるのはダウタウンぐらいでしょうか。

大阪洒落ことばも、そうですね。たとえば『夏の火鉢』。時期外れで誰も手を出さないという意味ですが、若い世代には火鉢がわからない。見たことがないからです。そのあたりの難しさがありました。

昔の商人は笑いをコミュニケーションツールとして利用したんです。特に大阪は商売の街。殿さんがいませんから

横社会です。そこで笑いが盛んになる。東京は武家社会ですから、武士は食わねど高楊枝ではありませんが、本音と建前があります。大阪は本音社会と言えるのではないのでしょうか。家に家風、学校に校風、県民性などがあるように、大阪の街にも独特の文化がありますよね。

京都は着倒れ、大阪は食い倒れという言葉があります。藤本義一先生に教えていただいた話があります。京都は着物文化が発展していて、西陣など着物を作る地域もありますが、気を遣うから「気倒れ」でもあるそうです。大阪は食べる食い倒れもありますが、昔の大阪商人のステイタスは自分で橋を架けること。豪商・淀屋が架けた淀屋橋や、商人・岡田心斎の心斎橋がいい例です。橋の杭は水に浸かっているうちに腐ってくる。それを修理すると大きな費用がかかり、本業が傾く。そういう意味で「杭倒れ」。

ほかにも藤本先生にはいろいろ教えていただきましたね。三途の川を渡るな、というのもありました。「判子押さず、金貸さず、役つかず」。判子を押したりお金を貸したり、仕事をおろそかにして何かの世話をすると家業が傾く、というようなことですね。藤本先生に教えていただいたことがきっかけで、大阪洒落ことばとか大阪文化に、興味関心を持つようになりました。自分でも勉強し始めました。たとえば「二階から目薬」も、ことわざだと思っていたら洒落ことばなんですね。

また、よく言われる笑い話ですが、大阪の人は、刀で斬る真似をされたら、「斬られた」というようなポーズをとる。サービスのスキルが高いのでしょうね。商人の街ですから、相手の方がいつお客様になるかわからない。そういう考えが込み込んでいるから、大阪の人はサービス精神が旺盛なのではないのでしょうか。人にもよるとは思いますが、タクシーに乗る時もそうです。「近いけど心斎橋まで行ってや」というような言い方をする。たとえば東京では「銀座まで」で済んでしまう。ものの言い方がやはり違うのでしょうね。

もともと大阪には船場ことばがあります。ですから、柔らかいことばなんです。泉州ことばや河内ことばがメディアで広く知られるようになったので、大阪のことばは威勢がいいというイメージがつかしました。ところが船場ことばは優しい。娘さんたちを「いとさん」「こいさん」と呼ぶのもそうです。「ぼちぼちでんなあ」もありますね。商売はどうですか？ と聞かれた時に大阪の商人は「儲かってまんねん」「あきまへんねん」と言うのはよくないので「ぼちぼちでんなあ」と言うんです。商人の知恵というか、こう言われると誰も嫌な思いをしません。

大阪のこれから

以前、笑学センターの企画でプロの落語家と俳優が出演された「演劇落語」を観ました。今後もプロの方を呼んで実演するというのが、今の学生さんやお客さんにはわかりやすいのではないのでしょうか。若い世代とわれわれ世代とは笑いのツボが違うかもしれません。しかし、プロの力はやはりすごいです。夢路いとし・喜味こいしさん、横山やすし・西川きよしさんのような漫才だけではなくて、松竹新喜劇の藤山寛美さんなど、大阪の笑いの芸は本当に面白いと思います。

かつて、新世界花月という寄席がありました。また、通天閣の地下にも寄席がありましたね。どちらも松竹芸能系で、出演されていた方々では横山たかし・ひろしさんが印象に残っていますね。松鶴さんには街を盛り上げるためのアイデアをいただきました。餅つき大会を提案されただけでなく、当日はお越しくださいました。また、お弟子さんの鶴瓶さんと呼んでくださって、通天閣の前にたくさんのお客さんがお越しになり、パニック状態になったこともありました。

通天閣は2024年12月から南海電鉄グループの会社になりました。南海さんのマンパワーと資金力は、通天閣にとっては大きなプラスです。新世界にもプラスになる。僕自身は顧問としてあと1年間、会社に残りますが、南海さんが地域活性化をどんどん進めていってくださるという話を聞いておりますので、とても期待しています。

地域活性化にはナンバー2が頑張らないといけない。東京は首都でありナンバー1です。ナンバー2はやはり大阪なんです。大阪もキタはナンバー1ですけど、ナンバー2の大阪南部が頑張らないと大阪の活性化につながらないと思っています。巨人と阪神みたいなものでしょうか。双発エンジンでなければなりません。

近年、関西国際空港から入国・出国するお客様がとて多いと聞きました。以前は成田空港や羽田空港だったらしいのですが、今はこちらが多い。関西には京都、奈良、神戸、和歌山等の観光地がまとまっています。ピンポイントで人を呼ぶのではなく、エリアで集客することが大事です。ですから大阪近辺は更に伸びていくのではないのでしょうか。長島茂雄が「巨人軍は永久に不滅です」と言ったように、大阪のシンボル・通天閣は永久に不滅です。

就活と笑顔

上方文化笑学センター客員研究員 大谷 邦郎

小職は「就活生応援ラジオ番組」のパーソナリティーを務めている。(ウメダFM「はたなびプラス」／大阪労働協会提供 毎週月曜日 12時30分～13時OA)

それゆえ就活セミナーの講師として時に声がかかる。そこで就活にこれから臨もうと言う学生たちに最初にアドバイスをするのが「笑顔の重要性」である。難しい顔をして面接を行う企業の採用担当者も、自らの職場を明るく楽しいものにしたいのだ。となると“手っ取り早い方法”は笑顔の多い学生を採用すること。彼ら彼女たちが職場に配属された当初は間違いなく笑顔が増えるからだ。(その笑顔が消えずにそのまま維持されるかはどうかは別にして)なので、就活の第一歩は「笑顔」の練習から始めようと学生には声を掛ける。

しかし、ある時複数の「就職情報サイト」の担当者がトークを繰り広げるイベントでファシリテーターを務めていた際、「笑顔って重要ですよね!？」と登壇者に水を向けると、こうコメントした人がいた。「笑顔の重要性を知るだけに留まらず、どんな時でも笑顔を作ることが出来る術を持つ必要がある。時には“笑顔の仮面”をつけるのが社会人だ」と。その時は「まあ、確かに!」とそれ以上は踏み込まなかったものの、実は引っかかっていた。そして、今も。

労働には「肉体労働」「頭脳労働」とともに「感情労働」がある。言うまでもないが「肉体労働」は、自らの肉体、自らの身体を使って報酬を得る労働。そして「頭脳労働」は自らの頭脳を使い、斬新なアイデアやユニークな企画などを提案することによって報酬を得る労働のこと。では「感情労働」とは?それは、自らの自然な感情を抑え、それぞれの職種や職場に相応しいとされる感情を見せることによって報酬を得る労働のことだ。看護や介護の現場、販売の現場ではそうした「感情労働」が求められる。もちろんどれも素晴らしい仕事だ。あなたの笑顔が、患者を、要介護者を、そして顧客を喜ばせたり、安心させたり、感動させたり出来る。また、そうした姿を見ることで、あなたのモチベーションが上がり、さらに仕事への意欲が増すだろう。しかし、その一方で、大きなストレスを抱える可能性も高い。そして、そのストレスがあなたの心身を蝕む場合もあるのだ。そうした現実が控えていることから、夢や希望を抱えて社会に出る準備をしようとする学生諸君に向かって「どんな時でも笑顔を作ることが出来る術を持つ必要がある。時には“笑顔の仮面”をつけるのが社会人だ」と言うアドバイスなど、小職は出来ない。日本の企業の人権擁護の意識の低さが世界的にクローズアップされる昨今、なおさら「常に笑顔でいろ!」とは言えないし、言うてはいけない。

では、改めて、就活生には何とアドバイスをすれば良いのか?例えば「笑顔は重要だ!だから、常に笑顔になることが出来る事象を見つけよう!面白いクセをつけよう」と言うのはどうだ。実際、採用面接で「あなたがここに来るまでに面白いなあと思ったことは何か?」と言う質問をした企業を知っている。また、最終面接で大喜利のような質問を受けた学生も知っている。常に「面白い」をキャッチ出来るアンテナを立てようではないか。例えば、日清食品の英語表記は「NISSIN」。これは上下逆さにして見ても「NISSIN」と読めることに気付くだけで面白い。地下鉄の車内ポスター。ドアの左横に「脱毛エステ」のポスターが貼られ、ドアの右横に「植毛クリニック」のポスターが貼られている。これを見て「人間ってなんて矛盾しているんだ」と思おうではないか。地下街を歩いていた。前を行く二人。女子学生か。一人が、もう一人に言う。「私、こう見えても、黙っている時は・・・無口なんよ」追い越しざ

まに思わず振り返りそうになった。そして心の中で突っ込んだ。「誰でもやん！」

街には「笑顔にしてくれる事象」が溢れているのだ。それに気付こう、それを見つけよう、そして、それを楽しもうではないか！今の就活は長い期間がかかるし、エントリーシート一つ書くにしてもなかなか大変である。にもかかわらず志望の企業から内定が貰える補償などない。若い学生諸君にしてみれば、もしかしたら人生初の試練なのかもしれない。それだけに楽しむ術を持つことは重要だ。この拙い文章が少しでも参考になれば嬉しい限りである。そして、最終的に、学生諸君が笑顔を見せて社会に旅立つことを心から願っている。

こころネット KANSAI × DIVE プロデュース公演

『あなたのとなりに』

上方文化笑学センター所員・社会学部 横田 修

2025 年 1 月 16 日（木）～ 20 日（月）に大阪の小劇場・ウィングフィールドにて、アルコール依存症を描くオムニバス劇『あなたのとなりに』が上演された。当センターは舞台の映像記録を担当した。

本演目は、人々が抱える「生きづらさ」に取り組む医療・福祉等の専門家だけでなく当事者や一般市民からなる NPO 法人こころネット KANSAI（以下こころネットと表記）と、様々な地域の演劇人とネットワークを築きながら「創造環境の整備と舞台芸術の一層の社会化に寄与すること」を目的に活動する NPO 法人大阪現代舞台芸術協会（通称 DIVE・以下 DIVE と表記）が連携して行うプロデュース作品である。

具体的な創作の進め方は以下の通りである。まず、こころネットのコーディネートのもと、DIVE に所属する劇作家 3 名が、アルコール依存症の当事者やその家族、医療関係者などの支援者に対し、約 1 年をかけて取材を行った。作家には「依存症当事者」、「当事者家族」、「ケースワーカー」という視点がそれぞれ割り当てられ、30 分程度の新作短編戯曲を執筆した。その後、俳優オーディションが実施され、DIVE 所属の演出家 3 名が稽古を進め、舞台作品を完成させた。

作者の中には、2015 年に OMS 戯曲賞大賞を受賞した高橋恵（虚空旅団）が含まれ、総合演出は 2019 年に文化庁芸術祭優秀賞を受賞した橋本匡市（万博設計）が担当。さらに、監修は劇団太陽族の岩崎正裕が務めた。大阪を拠点に活動する実力派の演劇人が結集した本企画は、全 7 ステージがほぼ満席となる盛況のうちに幕を閉じた。なお、筆者も微力ながら劇作メンバーの一人として参画する機会を得た。

映像記録を残す意義は、アルコール依存症について学ぶ機会を提供することにある。想定される鑑賞者は、学生や将来ケースワーカーを目指す人々である。

もちろん、演劇は創作物であり、戯曲は論文や教科書とは性質を異にするテキストである。決して正確な知識や正しい面接技法を示すものではないが、アルコール依存症という疾患を病い（illness）の観点から捉える上で、本作『あなたのとなりに』は鑑賞に耐えうるメディアとなり得ると考える。

病いは、疾患のような生物医学的な論理的体系にもとづく説明とはちがって、それぞれの病者がみずからの五感を通じて感知（perceive）したわずらいの過程でありその解釈であって、多義的な意味世界を包摂するのである。¹

なぜ本作『あなたのとなりに』が、教育を目的とした鑑賞に耐えうるメディアとなり得るのか。以下に論じてみたい。

一つには、物語の中心が語りによって構成されている点である。拙作『わらってゆるして。』の創作にあたっては、

1 蘭由岐子、「病いの経験」を聞き取る—ハンセン病者のライフヒストリー—、生活書院、2017、p70



画像1・公演チラシ（表面）

あなたのとなりに

こころネット KANSAI × DIVE プロデュース公演

ふと、街に目を向ける。あくせくと行き交う人々は何処へ向かうのだろう。色々な人々が、様々な理由を抱え、街を行き交っている。そんな街の「背景」にも目を凝らしてみよう。新発売のお酒を宣伝する広告、コンビニの冷蔵庫、居酒屋の赤提灯、酒屋の前の自転車…。街を行き交う人々の背景に、お酒への誘惑の糸はところせましと張り巡らされている。そんな街で私達は生活をする。歩き、置き、絡めどられ、ときに動けなくなってしまうこともある。それでも、人は生活をする。

今作は、人々が抱える「生きづらさ」に取り組む医療・福祉等の専門家だけでなく当事者や一般市民からなるNPO法人こころネット KANSAIとDIVEが連携し、3人の劇作家がアルコール依存症に関して現場で取材を重ねて書かれた3本のオムニバス公演です。それぞれの風景の中で生活をする人々の生き様が、この作品に触れた人達にとって、街に離れた一縷の望みに繋がりますように。

総合演出
橋本匡市
万博設計

『やがて窓辺にあかねさす』 (作) 杉山晴佳 あうん堂 (演出) 中川真一 遊劇舞台二月病

ある日の家族会終了後、初めて箸の前で語った体験談がうまく運ばなかった男性の気持ちを家族会を取り仕切る女性が聞いている。更に忘れ物を取りに戻ってきた参加者も加わり、酒に囲まれた日常の中で病に向き合う家族のほどかしさにうずもれつつも、この病と前向きに立ち向かう日差しが雨上がりの部屋の窓辺に差し込んでくる。

(出演) 大西敦司
岡田望
木本牙狼
杉江美生 8.22企画
杉山寿弥 あうん堂
田中香織 こころネット KANSAI
得田晃子 造手門学院大学舞台芸術
三輪華蓮 プロジェクト STEP
村尾オサム 遊劇休
モモトモヨ
森田祐利栄 エイチエムビー・シアターカンパニー
山下真実 舞夢プロ/虚空楽団

『SALT』 (作) 高橋恵 虚空楽団 (演出) 橋本匡市 万博設計

夕刻、入口の大きなガラス戸が割られ、補修のため段ボールをつなぎ合わせるケースワーカー。ガラス戸を割ってケガをした患者を病院へ運んだりと同僚たちも落ち着かない。そこへ患者の母親という女が訪ねてきた。聞けば患者は隠れてスリッパ(再飲酒)し、再び病院に運ばれたという。落胆した母親をなんとか助ますケースワーカー。再び作業を始めると段ボールに紙片が挟まっているのを見つける。

監督＝若嶋正裕 [劇団今太陽旗]
舞台美術＝サカイヒロト [WIRE]
舞台監督＝今井謙平 [(株) カンパニー]
照明＝村田種子 [白いたんぽぽ]
美術製作＝河内良子
音楽＝あなみふみ [ウイングフィールド]
映像撮影＝NOLCA SOLCA Entertainment
協力＝造手門学院大学上文化実学センター
宣伝美術＝山口良太 [slowcamp]
宣伝イラスト＝OTA Minaemi
制作＝若嶋正裕
[エイチエムビー・シアターカンパニー]
提携＝ウイングフィールド
助成＝芸術文化振興基金 8号、大阪市
企画＝NPO法人大阪現代舞台芸術協会
NPO法人こころネット KANSAI
製作・主催＝NPO法人大阪現代舞台芸術協会

『わらってゆるして。』

(作) 横田修 タテコ企画 (演出) 早坂彰 トレモロ

断酒会の先輩を迎えに中年の男と女が老人ホームへと向かう。断酒会を控えた二人は晴れ姿を見てもらいたかったのだ。しかし一向に部屋から出てこない先輩には、昨夜の外出先においてスリッパ(再飲酒)の疑いが…ホームの職員や若い精神保健福祉士と共に先輩を待つ間、彼らは酒と共にあった人生を振り返る。

(作) 横田修 タテコ企画 (演出) 早坂彰 トレモロ

2025年1月16日(木) — 20日(月)

1/16 木	1/17 金	1/18 土	1/19 日	1/20 月
19:00	19:00	13:00 18:00*	11:00 15:30*	13:00

★アフタートークあり
※受付は開演の40分前。開演は開演の30分前

ウイングフィールド

542-0083 大阪府大阪市中央区東心斎橋2-1-27
南町ウイングス6F
●階段最上段横断歩道出口を出て右折。
●階段を南へ約3分
●郵便局横断歩道出口を出て東へ約10分

チケット (整理券番号は自由席)

一般	25歳以下・障害者
前売 3,500円 当日 4,000円	2,500円 3,000円

※10:00～19:00

チケット取扱い・問合せ

NPO法人大阪現代舞台芸術協会 (DIVE)

WEB <https://ticket.corich.jp/apply/347552/>
Mail diveosaka@gmail.com
Tel 090-9696-4946 (前田)

※10:00～19:00

※応援チケットで集まった寄付は、25歳以下・障害者チケットの割引(定額)にあてさせていただきます。
当日配布するパンフレットにお名前を掲載させていただきます (希望者のみ)

ご観劇につきまして

- 会場は靴を脱いでご入場いただきます。
- 車いすのご来場や上演台本の貸し出しのご希望など、ご観劇に関してご希望やご不安なことなどございましたらお気軽にお問合せください。

NPO法人大阪現代舞台芸術協会 (DIVE)

NPO法人大阪現代舞台芸術協会は前身となる関西演劇人協会を経て、阪神淡路大震災を大きな契機とし、主に関西小劇場に属する舞台芸術者たちによって1997年に設立。設立当初は、「演劇人同士のネットワークづくり」を主目的としていたが、時代が重なりつれ、より活動の幅を広げる必要性を感じ、2005年にNPO法人化する。現在は、大阪に限らず様々な地域の演劇人とネットワークを築きながら「創造環境の整備と舞台芸術の一層の社会化に寄与すること」を目的に活動している。

ウェブサイト <https://www.ocpa-dive.com>

画像2・公演チラシ(裏面)



画像3・舞台『わらってゆるして。』（左より）村尾オサム、森岡拓磨、木本牙狼、杉江美生
撮影：河西沙織（劇団壱劇屋）

6名の当事者、3名の医師、9名の精神保健福祉士に対し、それぞれ約2時間のインタビューを実施した。本作は、当事者やその家族、あるいは医療関係者の語り（ドラマ）を紡ぎ、創作した戯曲である。もちろん、一言一句がそのまま使用されているわけではなく（インタビューのプライバシー保護のため）、すべての言葉を忠実に再現しているわけでもない。本作はドキュメンタリー作品ではないが、語りのエッセンスを可能な限り取り入れ、作劇を行った。その点は確かである。

二つ目は、専門家の監修が色濃く反映されている点である。稽古を開始した直後に行われる本読み（俳優たちが戯曲を見ながら台詞を読み合わせること）の段階から、稽古場を訪れたところネットの関係者、特にケースワーカー（精神保健福祉士）の皆さんから、リアリティに関する多くの厳しい意見を頂戴した。

通常、戯曲には台詞を含む役同士の相互作用が描かれる。今作に登場するワーカーが劇中で患者に向けて発する言葉や彼らへの接し方は、日頃から同様の仕事をしている人々にとって、その知見をもとに検証せずにはいられない対象であったのだ。むしろ、後進の者たちに舞台映像を見せることを考慮すれば、当然のことと言えるかもしれない。

指摘に対する対応は作者によって異なるが、筆者は指摘のあった箇所について、演出の早坂彩（トレモロ）と相談しながら周辺の台詞の修正や改変を行った（もちろん、指摘をそのまま受け入れたわけではない）。細部にまで行き届いた指摘は、一般的なドラマにおける専門家の監修を上回るほどであった。通常の創作ではあまり見られない過程ではあるが、そのおかげで学びに資する作品の完成につながったように思う。

ただし、繰り返すが戯曲は教科書ではない。描かれたやり取りにリアリティーがあればそれで良いかと言えば決してそうではないのだ（あえてリアリティーのない描き方をすることで本質を突く描き方だって存在する）。創作物としての戯曲とは、演劇とは、もっと自由な存在である。その点を十分に踏まえた上で、今作『あなたのとなりに』は、演劇が教育的な目的に資するメディアとなりうる可能性を実感できる企画であった。

筆者自身、アルコール依存症が疾患であることは知識として理解していたが、取材や作劇の過程を通じて、依存症当事者やその家族、医療関係者などの支援者がこの病（やまい）に向き合うことの困難さを改めて認識するに至った。映像記録の鑑賞者にも、同様の体験をしてもらえることを願う次第である。

2024 年度上方文化笑学センター活動記録

2024 年

- 5 月 15 日 第 1 回所員会議 於：Zoom ミーティング（オンライン）
- 6 月 21 日 動画カフェ①「OSK 日本歌劇団レビュー」
於：総持寺キャンパス 4 階 A432 教室
- 6 月 29 日 第 15 回 道修町たなみん寄席「女性芸能者のいまむかし」
於：田辺三菱製菓株式会社 講演・鼎談「女性と芸能のかかわり」広瀬依子
- 7 月 2 日 動画カフェ②「落語を楽しむ会」（学生参加無し）
於：総持寺キャンパス 4 階 A432 教室
- 7 月 9 日 動画カフェ③「チャップリンなどの喜劇映画」（学生参加無し）
於：総持寺キャンパス 4 階 A432 教室
- 10 月 7 日 第 2 回所員会議 於：Zoom ミーティング（オンライン）

2025 年

- 1 月 8 日 第 3 回所員会議 於：Zoom ミーティング（オンライン）
- 1 月 16 日～20 日 協力公演「あなたのとなりに」（こころネット KANSAI & DIVE プロデュース）
於：ウイングフィールド
- 1 月 25 日 特別顧問・通天閣の西上会長インタビュー（広瀬）
- 3 月 30 日 「上方文化笑学センター年報 第 5 号」発行

メディア掲載

- ・横田 修 社会学部舞台表現プロジェクト（通称 STEP）で、学生が執筆した脚本による公演『かみひとえ』が行われたことに関する記事：『何げない言葉に傷ついた大学生 脚本で問いかけたい「いい言葉とは」』朝日新聞 2024 年 6 月 23 日（日）掲載。

【Web 版記事 URL】<https://www.asahi.com/articles/ASS6P2G0KS6POXIE042M.html>

社会学部舞台表現プロジェクト（通称 STEP）が、認知症をテーマに行った講演の取り組みで、学生が脚本を手掛けたことに関する記事：『認知症のおじいちゃんが「別の人に」 大学生の孫は後悔を演劇にした』朝日新聞 2024 年 12 月 4 日（水）掲載。

【Web 版記事 URL】<https://www.asahi.com/articles/ASSD41TLYSD4OXIE03NM.html>

協力公演『あなたのとなりに』についての記事：『アルコール依存症めぐる人間模様、劇に「あなたのとなりに」ドラマ性とリアル、両立に腐心』朝日新聞東京夕刊 2025 年 1 月 16 日（木）掲載。

【Web 版記事 URL】<https://mainichi.jp/articles/20250116/dde/018/200/016000c>

テレビ・ラジオ出演

・広瀬依子 NHK ラジオ第1『関西発ラジオ深夜便』

かんさい玉手箱～古典芸能情報コーナーに、関西の舞台芸能に詳しい専門家として出演

放送日：4月13日（土）「大阪の喜劇」／6月15日（土）「大相撲と芸能」

8月10日（土）「漫才の系譜」／10月12日（土）「芸能の中の動物」

12月14日（土）「忠臣蔵の秘密」／2月15日（土）「女優の誕生」

2024 年度上方文化笑学センター所員および研究員一覧

センター長	広瀬 依子	文学部 講師（上方芸能、伝統芸能）
所 員	浦 光博	追手門学院大学 教授（社会心理学、行動科学）
所 員	佐藤 貴之	文学部 准教授（日本近現代文学）
所 員	辰本 頼弘	社会学部 教授（スポーツ科学）
所 員	横田 修	社会学部 教授（演劇・表現コミュニケーション）
客員研究員	大坂 幸司	追手門学院大学校友会 理事、元(株)日本旅行勤務
客員研究員	大谷 邦郎	グッドニュース情報発信塾 塾長、NPO 法人 DDAC（発達障害を持つ大人の会） 監事、 元・MBS ラジオ報道部長
客員研究員	木村 未来	文学部 非常勤講師、元・読売新聞文化芸術部記者
客員研究員	瀬沼 文彰	西武文理大学サービス経営学部 准教授、日本笑い学会理事
客員研究員	高垣 伸博	文学部 非常勤講師、大阪府立上方演芸資料館・ワッハ上方「プロモーション委員会」事 務局（プロデューサー）
客員研究員	鳶野 克己	立命館大学 文学部 特任教授、日本笑い学会会長
客員研究員	福山 侑希	奈良市子どもセンター、臨床心理士／公認心理師
特 別 顧 問	坂井東洋男	追手門学院大学 名誉教授、元学長
特 別 顧 問	西上 雅章	通天閣観光（株） 代表取締役会長、追手門学院大学 客員教授

追手門学院大学上方文化笑学センター規程

令和2年2月17日

制定

（設置）

第1条 追手門学院大学学則第58条に基づき、追手門学院大学（以下「本学」という。）に、上方文化笑学センター（以下「センター」という。）を設置する。

（目的）

第2条 センターは、本学の総合大学としての学問的蓄積を生かし、人類の誇りうる能力であり文化である笑いを対象にした、学問・文化の集積拠点となり、教育・研究活動の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1） 笑いを中心とした上方文化に関する情報発信
- （2） 笑いとユーモアを活用した教育プログラムの開発
- （3） 上方芸能及び笑いの文化に関する図書及び資料等の情報収集並びに提供に関すること。
- （4） 講座、講演会、シンポジウム等の開催
- （5） その他センターの運営に関すること。

（センター長）

第4条 センターに、センター長を置く。

- 2 センター長は、学長の推薦により常任理事会の議を経て学長が任命する。
- 3 センター長は、センターを代表し、センターの運営を統括する。
- 4 センター長の任期は、4月1日から2年間とし、年度の途中で任命された場合は、就任した年度の翌年度の4月1日から起算して2年を経過する日までを任期とする。ただし、再任を妨げない。

（所員）

第5条 センターに、所員を置くことができる。

- 2 所員は、大学の専任教職員の中から、第2条の目的を達成するために必要な専門性を有する者を所長が推薦し、学長が委嘱する。ただし、任期は2年とし、再任を妨げない。

（客員研究員）

第6条 センターに、客員研究員を置くことができる。

- 2 客員研究員は、学外の有識者の中から、第2条の目的を達成するために必要と判断される者をセンター長が推薦し、学長が委嘱する。ただし、任期は1年とし、再任を妨げない。

（特別顧問）

第7条 センターに、特別顧問を置くことができる。

- 2 特別顧問は、センター長の推薦により学長が任命する。
- 3 特別顧問は、センターの事業推進についてセンター長に助言等を与える。

（事務の所管）

第8条 この規程に関する事務は、研究企画課の所管とする。

（規程の改廃）

第9条 この規程の改廃は、大学教育研究評議会の議を経て学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は、2020 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 追手門学院大学笑学研究所規程（2015 年 9 月 4 日制定）は、2020 年 3 月 31 日をもって廃止する。

附 則

この規程は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

追手門学院大学上方文化笑学センター年報 第 5 号

2025 年 3 月 30 日発行

発行者：追手門学院大学上方文化笑学センター
〒 567-8620 大阪府茨木市太田東芝町 1 番 1 号
TEL：072-665-9217（研究所・センター窓口）

印刷所：協和印刷株式会社
〒 615-0052 京都市右京区西院清水町 13
TEL：075-312-4010
